

愛媛県教育研究大会の研究推進について

教育研究局研究部

I 大会主題

『子どもが変わる教育の推進』

～主体的・対話的で深い学びに向かう授業の創造～

II 主題設定の理由

愛媛県教育研究協議会は、結成当初から時の教育課題の解決に向けて真摯に取り組み、愛媛県教育研究大会において、その取組の成果を共有してきた。平成14年度（第7期）以降は、「生きる力を育む教育の創造」を大会主題とし、3年サイクルでの実践研究を積み重ねてきたが、以下の課題への対応が迫られている。

1 社会からの要請課題

今後、情報化やグローバル化、技術革新などの急速な進展が予想されており、学校においては、子ども一人一人が未来を切り拓いていくために必要な資質・能力を追究しながら社会と共有・連携して、その育成を図ることが求められる。

2 学習指導要領からの要請課題

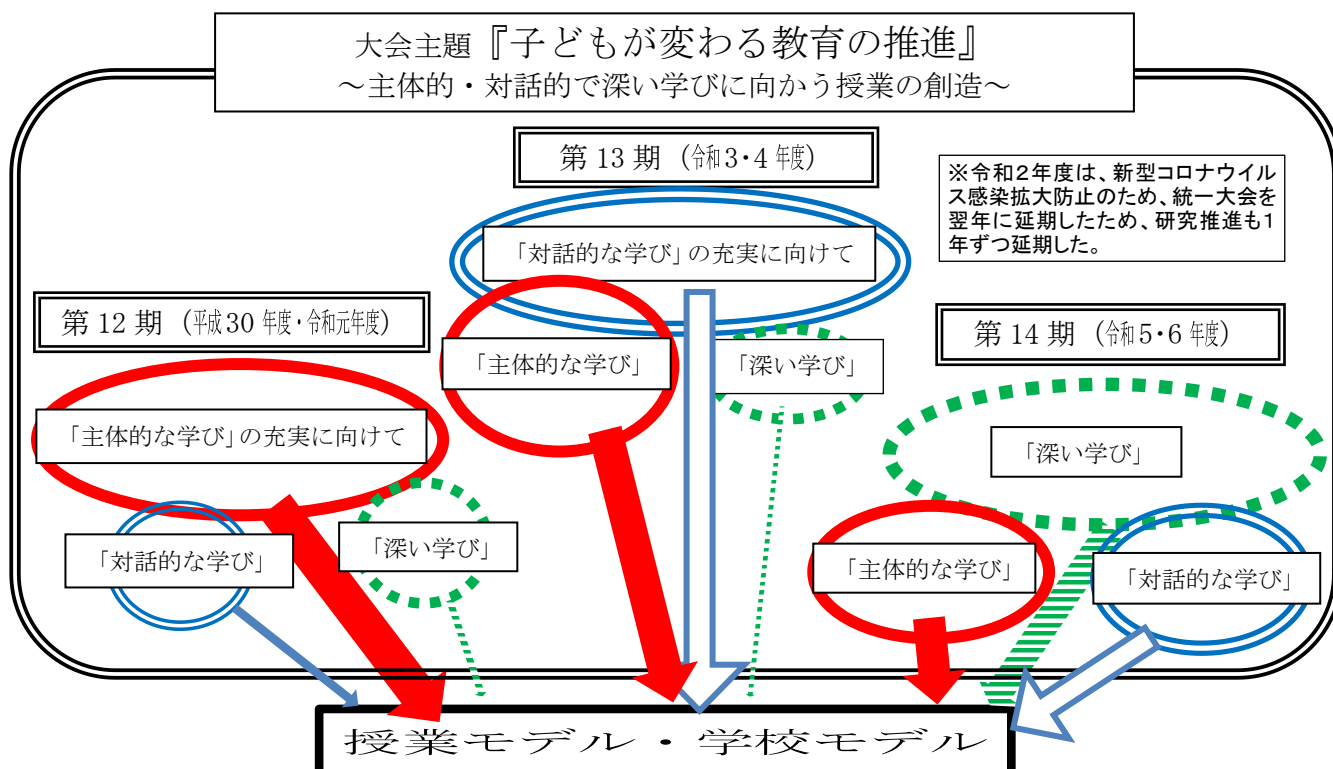
学習指導要領では、目標や内容が資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」で再整理された。これらの資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められる。

3 教職員の実態からの要請課題

今後、少子化による学校数・教職員数の減少及び大量退職・大量採用による教職員の年齢構成の変化が予想されており、本県が培ってきた「同僚性を基にした良き教師文化」の確実な継承が求められる。

愛教研では、このような要請課題のうち、学習指導要領の核とも言える「主体的・対話的で深い学び」に視点を当て、3期6か年を掛けて、学習過程の質的な改善を図るための研究実践を積み重ね、愛教研が目指してきた子どもが変わる授業の在り方や学校の在り方を探る。

III 研究推進の概要 ー2年サイクル6年スパンの研究のイメージー



Ⅳ 第12期研究の成果と課題

1 研究指定校の成果と課題

第12期の2年間（平成30年度～令和元年度）の研究指定校であった松前町立松前小学校と松前町立北伊予中学校は、授業改善の視点である「主体的・対話的で深い学び」の中でも主に「主体的な学び」に焦点を当てて実践的な研究を推進し、成果と課題を明らかにすることができた。両校の研究の成果と課題について、それらの一部を次に示す。（○…成果、△…課題）

- 「自分の思いや考えワークシート」、「対話マニュアル」や視点を明確にした「振り返りカード」の活用及び実生活と結び付ける振り返りの設定や他者へ発信する場づくりの設定が効果的であった。（松前小）
- 各授業で、振り返りの場面の生徒の姿をイメージして課題の設定を考えるなど、教材研究の充実を図ることができた。（北伊予中）
- △ 小・中学校の連携を一層図り、系統性を生かした指導に努めたい。（松前小・北伊予中）

なお、詳細は「第47回愛媛県教育研究大会（発表大会）研究集録」を参照されたい。

2 「主体的な学び」の評価に関する課題

令和元年6月に文部科学省と国立教育政策研究所教育課程センターから公表された「学習評価の在り方ハンドブック」の中の5頁に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について詳述があり、「①粘り強い取組を行おうとする側面」と「②自らの学習を調整しようとする側面」の二つの側面から評価することが示されている。特に、後者の「②自らの学習を調整しようとする側面」については、次のような具体的な工夫の重要性が示されている。

- ・ 児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫
- ・ 自らの考えを記述したり話し合ったりする場面の設定
- ・ 他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面の設定

これらの工夫は、本手引の5～6頁に掲載している「主体的な学び」に係る「授業改善の視点・具体的な方策」のうち、「D 粘り強い取組」や「E 振り返って自覚」の具体的な方策として位置づけることも可能であろう。今後の実践研究において、既存の「授業改善の視点・具体的な方策」とともに活用し、その有効性や妥当性についての検証が期待される。

Ⅴ 第13期研究の計画

大会主題『子どもが変わる教育の推進』～主体的・対話的で深い学びに向かう授業の創造～		
	1年次（令和3年度）	2年次（令和4年度）
大会	第48回愛媛県教育研究大会（統一大会） R 3. 8. 4（水） エスポワール愛媛文教会館 大ホール	第49回愛媛県教育研究大会（発表大会） R 4. 11. 9（水） 新居浜市立金子小学校・南中学校
学校	・研究主題設定と推進計画 ・実践研究	・実践研究 ・研究成果のまとめ
支部	各学校の実践研究のとりまとめ→研究交流の一層の促進	
研究指定校	・県下2校（同じ管内）近隣校を指定 新居浜市立金子小学校 新居浜市立南中学校 ・第48回愛媛県教育研究大会（統一大会）において研究の推進計画の報告	・第49回愛媛県教育研究大会（発表大会） R 4. 11. 9（水） ・授業研究会において研究成果の発表 ・第13期の成果と課題の確認、第14期の方向付け
本部	・基調提案（教研局） ・統一大会企画・運営 ・研究集録作成	・授業研究会企画 ・大会の反省・研究集録作成 ・第14期研究計画（指定校決定等）

Ⅵ 本年度の研究推進の留意点

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業や評価の改善と一人一台端末の効果的な活用

「主体的・対話的で深い学び」やカリキュラム・マネジメントの視点から授業や評価の改善を行い、目指す生徒像へと学びの質を高めていく。また、GIGAスクール構想に伴う一人一台端末の効果的な活用により、教科の学びを深めていく。

愛教研では、昨年度より2年間（令和3年度～令和4年度）の第13期に、新居浜市立金子小学校と新居浜市立南中学校を研究指定校とし、主に「対話的な学び」に焦点を当てて実践的な研究を推進している。研究指定校の両校はもとより各校・各支部においても、上表「第13期研究の計画」に基づいて、大会主題とサブテーマの実現を目指すこととする。その際、本手引の6頁に掲載している「対話的な学び」に係る「授業改善の視点・具体的な方策」のG～Jを中心に、各校の実態に応じてアレンジして活用し、その有効性や妥当性を検証する。

このような愛教研の研究により、各校や各支部の研修の充実を図るとともに、教員の資質・能力の向上に寄与していく。

2 研究交流の活性化

前期2年間の研究（松前小学校、北伊予中学校）の課題として、近隣の小・中学校間の連携を一層図ることが共通して挙げられた。今期サイクルの新居浜支部では、これまでも中学校区の小・中学校が、同じグランドデザインで学校経営をしている。小中連携は、時間軸で考えれば、子どもの成長には重要不可欠である。今後も、同校種や異校種の学校間で研究推進に関する情報を共有し、学校相互の教育活動の更なる向上に努める。また、各支部においても、支部間の研究交流も促進し、支部相互の教育活動の更なる向上に努める。

3 教科等・専門研究委員会等の研究の推進並びに連携

教科等・専門研究委員会においては、これまで積み上げてきた財産ともいえる研究を継続しつつ改善を図るとともに、大会主題やサブテーマに迫るべく、研究推進計画の見直しを図り、実践研究に努める。その過程で、「対話的な学び」に係る「授業改善の視点・具体的な方策」を活用し、それらの有効性や妥当性について発信することが望まれる。

また、各校・各支部においては、教科等・専門研究委員会や関係機関と積極的に連携し、教科等の本質を踏まえた研究実践や研究交流を進める。

4 愛媛大学教育学部との連携強化

「愛媛大学教育学部と愛媛県教育研究協議会との連携に関する協定」の締結後、研究指定校、教科等・専門研究委員会には、専門性の高い愛媛大学教育学部の先生方がアドバイザーとして配属され、研究推進に大きな成果を上げている。このような愛媛大学教育学部との連携をさらに強化し、研究の深化を図る。

5 研究推進の周知

研究推進の内容や方法を県内各校に積極的に発信し周知することは、愛教研の研究、及び各校、各支部の研究の活性化を図る上で重要である。愛教研及び各校・各支部のホームページ、グループウェア等、ICTを有効に利活用したり、郡市教科等委員長・専門研究委員長会や発表大会の場で伝えたりして、周知徹底を図る。

6 第49回愛媛県教育研究大会（発表大会）の開催

第13期2年サイクルの2年次の研究行事として、令和4年11月9日（水）に、新居浜市立金子小学校・新居浜市立南中学校において、発表大会を開催する。

本大会では、午前中は授業研究を通して、研究指定校の研究推進の成果を確認する。午後は、新居浜市市民文化センターに集結して研究指定校の研究発表やディスカッションにより、第13期2年サイクルの研究の「対話的な学び」を中心とした成果と課題を確認する。また、その内容が第14期の「深い学び」を中心とした研究推進への橋渡しとなるとともに、6年スパン大会の主題に迫るために役立つことを期待する。